

第7次カンボジア小学校建設活動 報告書

2015年8月30日～9月9日



特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

<活動概要>

活動名	第7次カンボジア小学校建設活動
日時場所	2015年8月30日～2015年9月9日 カンボジア王国コンポンチャム州、ストントラン群、プレイコイ区、ミヤック村、ミヤック小学校
統括者	勝又栄政(東洋大学3年)
現地カウンターパート	KHJ Construction Co.ltd
協力	藤原國雄・西伊豆町・WAA・出月ちひろ・野地久美子・松山敏明・笹雄貴 小川 真那・平はるか・北尾恵子 (敬称略)
参加人数	街頭募金活動参加者：約200名 カンボジア渡航者：68名(学生66名・一般1名・引率1名) カンボジア人学生9名
参加大学	駒沢大学・法政大学・東洋大学・国士舘大学・日本大学・日本体育大学・立命館大学・同志社大学・京都産業大学・京都外国語大学・龍谷大学・埼玉県立大学・長崎県立大学・高崎経済大学・神奈川大学・國學院大學・関西大学・フェリス女学院大学・東京家政大学・滋賀大学(順不同 計20大学)
受益者	ミヤック村の小学生975名(ミヤック小以外からの通学可能者65名増) カンボジア大学生8名

<活動背景・目的>

カンボジア王国はポル・ポト政権(1975年～1979年)時に、教育施設の破壊や教師の虐殺を含み、多くの社会基盤が破壊されました。その後、教育機関の再建が始まったものの、未だ校舎や教員の数が足りていない状況にあります。小学校の校舎は700校舎足りていないと言われており(2008年カンボジア王国教育省発表)、2、3部制で生徒を受け入れる学校も数多く、教育を受けられないため、結果的に思うような職に就けずこの国を担う人材も育ちません。現在、急速な発展を遂げているカンボジアにとって、教育はとても重要な課題となっています。

IVUSAでは、このようなカンボジアが抱える教育課題を改善するために、学校の校舎数を増やすことを主な目的として、2008年から児童教育の支援活動を実施しています。今までカンボジアに5校舎1図書館の建設を行いました。

今回支援を行った、カンボジア王国コンポンチャム州、ストントラン群、プレイコイ区、ミヤック村、ミヤック小学校では、校舎の老朽化が原因で数年前に校舎の一部が取り壊されてしまいました。その影響により、一部の生徒が小学校の敷地内にある物置や、離れた学校で勉強をすることが余儀なくされていました。

このような現状に対し、本協会の過去6回の現地活動の実績、IVUSA 学生のカンボジア教育支援に対する気持ちが重なり、今回の企画実施に至りました。今回私たちは、ミヤック村の子どもたちの「学びの環境を整え、未来を創造する」ということを目指し、学校の建設と子どもたちとの未来を創るための企画を行ってきました。企画に関しては、今回初めて西伊豆町の方々と提携することができ、西伊豆町の方々からも支援物資をいただき、現地の子どもたちへ届けてきました。

<活動内容>

8月30日から約10日間日本から66人の学生がカンボジアを訪れ、現地では日本語を学ぶカンボジアの大学生と一緒に小学校建設活動を行いました。

現地での作業は、レンガ張りになっている校舎の左官およびペンキ塗り、左官をする際に使うコンクリート作り、花壇への植物の植え込みでした。現場ではカンボジアの大工さんと通訳の方を通して連携し作業を進めていきました。建設活動の日数は全体で5日間と短く、ハードなスケジュールとなりましたが、大きく体調を崩した人もおらず、最後までみんなで頑張ることが出来ました。



左官作業の様子



ペンキ塗りの様子

中日である3日目には、カンボジア1次隊・3次隊で建設した小学校、そして6次隊で建設した図書館のあるプレイコイ小学校に訪問しました。そこでは「子どもたちの未来を創造する」企画として、科学実験と称し、シャボン玉作りと空気砲作りを行いました。段ボールをたたくと中から煙の出る空気砲は子どもたちも見たことが無かったようで楽しく遊んでくれていました。

また3日には今回の活動に多くの資金を提供して下さった藤原國雄様も合流し、一緒に作業を行いました。

建設活動5日目である9月5日の18時頃に作業が無事終了し、次の日の9月6日には開校式も行われました。沢山の村の方々参加してくださり、内務大臣にもお越しいただいて盛大な式となりました。隊員の有志によるよさこいも披露しました。



開校式の様子

贈呈式の様子

開校式の後には、西伊豆町から頂いたサッカーボールや絵具、鉛筆、シールなど様々な物資を贈呈しました。その中のものを使用し、子どもたちとサッカーをしたり絵を書くことを通して交流も行いました。また、もう一つの企画として「ピカチュウダンス」を子どもたちと一緒に踊りました。小学生の発達段階を踏まえ、身体を動かすことの大切さを一緒にダンスをすることを通して伝えられたと思います。子どもたちも嬉しそうに踊ってくれていたのがとても印象的でした。

今回建てた学校で、今までより良い環境で子どもたちが勉強し、学びを深めてもらえたら嬉しいです。



お絵かきの様子



ボール遊びの様子

<会計報告>

収入：18,619,400 円

支出：18,499,975 円

<次回への提案事項>

- ・資金調達方法の多様化
- ・チームとの円滑な連携
- ・今回の活動でできた西伊豆との繋がりを深め、新しい教育支援の提案

<リーダー所感>

カンボジアには、昨年度のスタディツアーと個人で訪れたものと、今回で3回目でした。昨年訪れたときは正直「行ってみたかった」それくらいしか考えてはいませんでしたが、今回リーダーとして同じ地を訪れるときには1年前と比にならないほど多くのことを考えていました。それができたのは紛れもなく、事前の取り組みに一番力を注いでいたからだと思います。

活動はなんとなくできるものではなく、活動をするためのベースが揃って初めてできる。そんなことを募金活動を通してひしひしと感じました。そしてまた、その募金活動を通して、自分の生活の一部である「お金」そして「大切な品々」を支援に回してくれる方々のありがたみと感謝の心を知りました。

活動自体はそう易しいものではなく、途中で「学校は建たないよ」と言われてしまうこともありましたが、隊員の頑張りにより建設活動をなんとか日程内に終わらすことができ、こどもたちと

の企画も行うことができました。それができたのも、陰で支えてくださった現地スタッフの方々、藤原さん、事務局と多くの方のご尽力があったからこそです。

まだまだ貧困地域も多いカンボジアにとって、今回私たちが行った支援である学校建設は、そう大きな支援ではないかもしれませんが。しかし、この活動を通して、またカンボジアに関わっていきたいという人々が増え、支援の輪をどんどんと広がることで、このカンボジアという国がいつか「生まれた瞬間に運命が決められてしまう国」でなくなるように。と、心から願っています。そのために、私自身も支援とは何か。自分にできることは何か。を考え、関わり続けたいと思っています。

最後に、この活動に携わって頂いた多くの方々、本当にありがとうございました。

東洋大学3年 勝又栄政

<メディア掲載>

Kohsantepheap daily 新聞

国営テレビ TVK

民間テレビ局 BAYON TV

静岡新聞

<過去の活動>

2006年 コンポンチャム州にて図書館建設活動のサポート

2008年 コンポンチャム州プレイコイ村にて5教室1校舎の建設

2009年 タケオ州オンクインニュ村にて3教室1校舎（約250名収容）の建設

2010年 コンポンチャム州トンレーバット小学校にて5教室1校舎の建設

2012年 シアヌークビル州チョムカーカウスウ中学校にて5教室1校舎の建設

2013年 コンポンチャム州プレイコイ村にて図書館の建設

2014年 スタディツアーを行い、これまでの建設地の視察と今後の支援の再検討

【主催】NPO法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

1993年より国際協力・地域活性化・災害救援・環境保護の4つの分野を柱に国内外で活動を行ってきました。2002年5月に、東京都よりNPO法人（特定非営利法人）として認証され、現在までに、1,400以上の事業を実施し、延べ58,000名が参加しました。

2006年には、過去50回におよぶ災害救援活動と、日々の会員の危機管理講習や災害想定訓練（IVUSAクライスマネジメント）が評価され『平成18年防災功労者』、として内閣総理大臣表彰を頂きました。2015年現在では首都圏・関西を中心に、約90大学、約2,700名の学生会員が所属しています。